

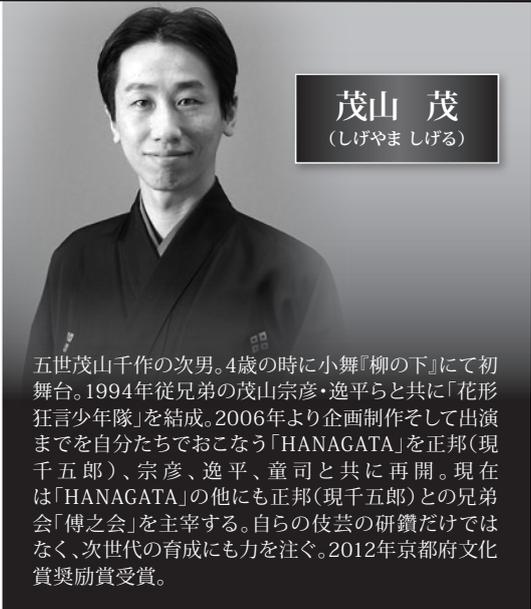
茂山 千五郎 家

九代目の茂山千吾正席が彦根藩の演能に参勤していた時、「枕物狂」のシテを務めていた役者が倒れ、その代役を見事に勤めた功績により彦根藩に抱えられた。現在も十四代目当主・千五郎を中心として、400年にわたり狂言の普及・継承に努めている。井伊直弼は、能・狂言に造詣が深く、自らも作品を作り、1曲の能と2曲の狂言が残されている。能は琵琶湖を舞台として「筑摩江(つくまえ)」。狂言は「鬼ヶ宿(おにがやど)」と「狸腹鼓(俗称「彦根狸」)である。狂言作品は、お抱え狂言師であった茂山千五郎に与えられ、茂山千五郎家では今も特別な曲として扱われている。



茂山 千五郎
(しげやま せんごろう)

五世茂山千作の長男。4歳の時に『以呂波』のシテにて初舞台。過去には『花形狂言会』『狂言小劇場』『TOPPA』『心味の会』を主宰し、狂言のみならず能楽のファン開拓にも力を注ぐ。現在は『茂山狂言会』花形狂言会改め『HANAGATA』弟茂との兄弟会『傳之会』落語家桂よね吉との二人会『笑えない会』を主宰し、幅広い年代層へ狂言の魅力を伝える。2005年文化庁芸術祭賞新人賞、2008年京都府文化賞奨励賞受賞。2016年十四世茂山千五郎を襲名。



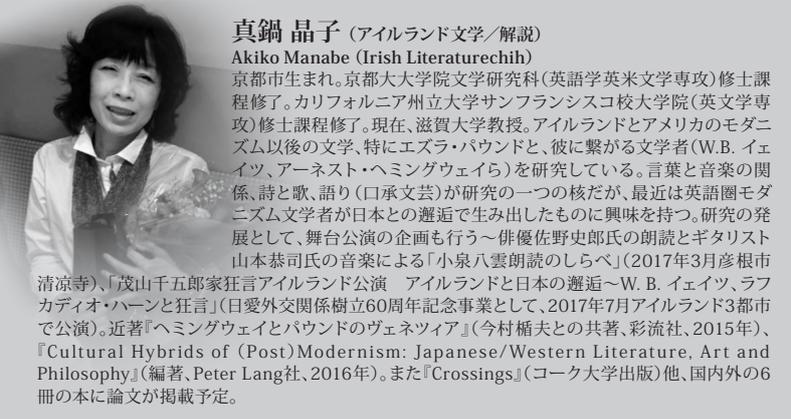
茂山 茂
(しげやま しげる)

五世茂山千作の次男。4歳の時に小舞『柳の下』にて初舞台。1994年従兄弟の茂山宗彦・逸平らと共に「花形狂言少年隊」を結成。2006年より企画制作として出演までを自分たちでおこなう「HANAGATA」を正邦(現千五郎)、宗彦、逸平、童司と共に再開。現在は「HANAGATA」の他にも正邦(現千五郎)との兄弟会「傳之会」を主宰する。自らの伎芸の研鑽だけではなく、次世代の育成にも力を注ぐ。2012年京都府文化賞奨励賞受賞。



松本 薫
(まつもと かおる)

1974年立命館大学在学中に四世千作に入門。同年『瓜盗人』のアドで初舞台。1984年には、同門の網谷正美と丸石やすしと共に「三笑会」を結成。27年間、年5回の「狂言三笑会」を開催し、2011年のファイナル公演まで131回数を重ねた。師千作を永年の目標としながらも日々自分自身の狂言を研究、精進を続けている。「三笑会」の活動で2006年「京都府文化賞功労賞」受賞。



真鍋 晶子 (アイルランド文学/解説)
Akiko Manabe (Irish Literaturechih)

京都市生まれ。京都大学大学院文学研究科(英語学英米文学専攻)修士課程修了。カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校大学院(英文学専攻)修士課程修了。現在、滋賀大学教授。アイルランドとアメリカのモダンズム以後の文学、特にエズラ・パウンドと、彼に繋がる文学者(W.B. イェイツ、アーネスト・ヘミングウェイ)を研究している。言葉と音楽の関係、詩と歌、語り(口承文芸)が研究の一つの核だが、最近では英語圏モダンズム文学者が日本との邂逅で生み出したものに興味を持つ。研究の発展として、舞台公演の企画も行う～俳優佐野史郎氏の朗読とギタリスト山本恭司氏の音楽による「小泉八雲朗読のしらべ」(2017年3月彦根市清涼寺)、「茂山千五郎狂言アイルランド公演 アイルランドと日本の邂逅～W. B. イェイツ、ラフカディオ・ハーンと狂言」(日愛外交関係樹立60周年記念事業として、2017年7月アイルランド3都市で公演)。近著『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』(今村橋夫との共著、彩流社、2015年)、『Cultural Hybrids of (Post) Modernism: Japanese/Western Literature, Art and Philosophy』(編著、Peter Lang社、2016年)。また『Crossings』(コーク大学出版)他、国内外の6冊の本に論文が掲載予定。



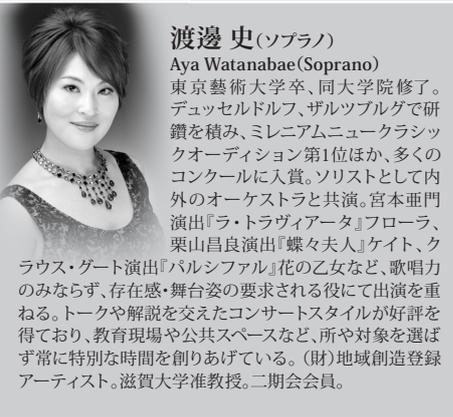
若林 千春 (作曲) Chiharu Wakabayashi (Composer)

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院作曲課程修了。日本音楽コンクール作曲部門(オーケストラ作品)第一位・安田賞を受賞。第1回東京文化会館舞台芸術作品募集最優秀賞。現代音楽セミナー&フェスティバル「秋吉台の夏2006～2013」招聘講師。現在までに10回の作品展を開催。2013年春の「若林千春 個展VIII」の模様は、二週にわたりNHK-FMで特集される。2013年秋には京都芸術センターとの共催により、尾形光琳没後300年&伊藤若冲生誕300年記念プロジェクトの作品を発表。委嘱作品の初演再演多数。作品は、東京フィルハーモニー・東京交響楽団・札幌交響楽団・東京混声合唱団・東京少年少女合唱隊・合唱団響・松原混声合唱団などにより国内で演奏されているほか、M.カーロリ、C.ドラングル、F.キューブラーの各氏や、「ジャパン・フェスティバル UK」、現代音楽演奏団体「Accroche notes(フランス)」など世界各国にて演奏され、楽譜がリリースされている。2012年に初のCD「原響/ひもろぎ」(ナミ・レコード)をリリース、レコード芸術誌にて推選盤の評価を得る。2013年には合唱作品によるCD「こえづくし/音迷宮」(ALM)をリリース。つづく2014年には自作自演による新たなCD「玉響(たまゆら)/the pianissimo」(ナミ・レコード)をリリースし、再度レコード芸術推選盤に選ばれる。東京藝術大学および同付属高校講師を経て、現在滋賀大学教育学部教授。平成19年度滋賀県文化奨励賞受賞。「なにもないことすべ(ら)う」をテーマに音楽活動を展開中。オフィシャル・ホームページ <http://basarachaosmos.wix.com/chiharuwakabayashi>



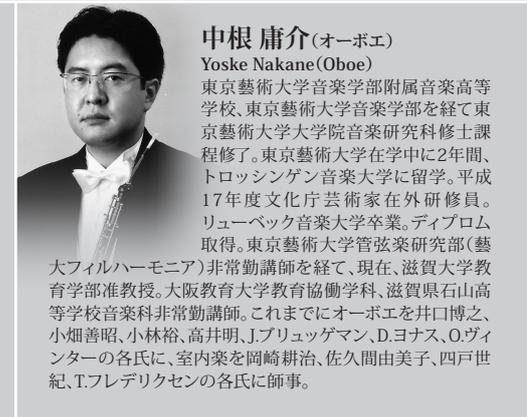
犬伏 純子(ピアノ)
Sumiko Inubushi (Piano)

東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院音楽研究科修了。第24回全日本学生音楽コンクール西日本大会第1位。大学在学中より、NHK-FMなどに出演。土肥みゆき、安川加壽子、アンリエット・ピュイゲ＝ロジェ他、各氏に師事したほか、フランスにおける夏季音楽アカデミーにて、V.ペルルミュテール、F.クリダの両氏に師事。日本演奏連盟推薦新人演奏会オーディションに合格し、外山雄三指揮、名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。日本演奏連盟賞受賞。以後、東京、名古屋、大阪、京都などでリサイタルを開催。大阪、インハラホールでのピアノリサイタル(フランス大使館、日本演奏連盟後援)でピュシシーのプレリュード第1集と第2集、全24曲を演奏し、「音楽の友」ムジカノーヴァ各誌で好評を得る。2009年、演奏家の身身の調和についての研究で博士号(音楽)を取得。第2回ローマ国際室内楽コンクール第1位、第2回ヨーロッパ国際音楽コンクールデュオ部門最高位。また演奏活動と並行して2005～2008年にかけてドイツで行われた「アリスボキネシス(理学療法に基づく演奏家のための身体法)」教師養成コースを受講し教師資格を取得。東京藝術大学非常勤講師。



渡邊 史(ソプラノ)
Aya Watanabae (Soprano)

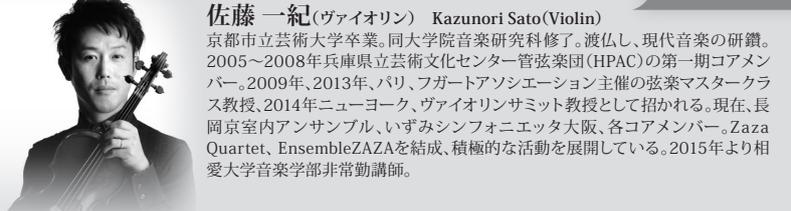
東京藝術大学卒、同大学院修了。デュセルドルフ、ザルツブルグで研鑽を積み、ミレニウムニュークラシックオーディション第1位ほか、多くのコンクールに入賞。ソリストとして内外のオーケストラと共演。宮本亜門演出『ラ・トラヴィアータ』フローラ、栗山昌良演出『蝶々夫人』ケイト、クラウス・ゲート演出『パルシファル』花の乙女など、歌唱力のみならず、存在感・舞台姿の要求される役にて出演を重ねる。トークや解説を交えたコンサートスタイルが好評を得ており、教育現場や公共スペースなど、所や対象を選ばず常に特別な時間を創りあげている。(財)地域創造登録アーティスト。滋賀大学准教授。二期会会員。



中根 庸介(オーボエ)
Yoske Nakane (Oboe)

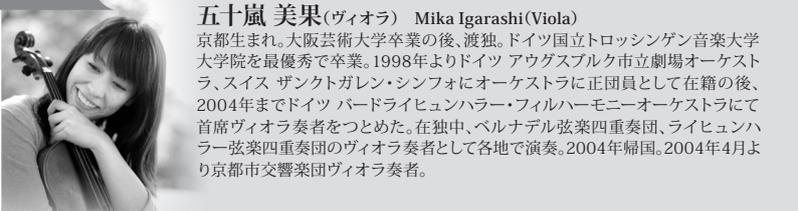
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部を経て東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。東京藝術大学在学中に2年間、トロンボーン音楽大学に留学。平成17年度文化庁芸術家在外研修員。リュウベック音楽大学卒業。ディプロム取得。東京藝術大学管弦楽研究部(藝大フィルハーモニア)非常勤講師を経て、現在、滋賀大学教育学部准教授。大阪教育大学教育協働学科、滋賀県石山高等学校音楽科非常勤講師。これまでにオーボエを井口博之、小畑善昭、小林裕、高井明、J.ブリュッゲマン、D.ヨナス、O.ヴィンターの各氏に、室内楽を岡崎耕治、佐久間由美子、四戸世紀、T.フレデリクスの各氏に師事。

《協演者》



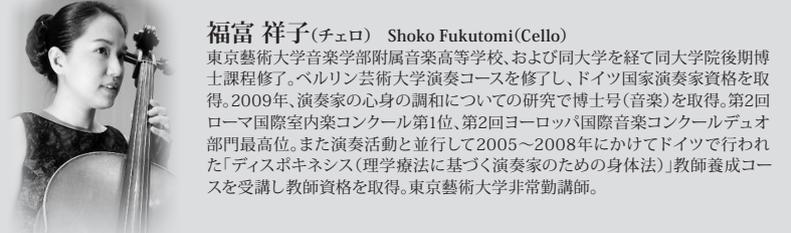
佐藤 一紀(ヴァイオリン) Kazunori Sato (Violin)

京都市立芸術大学卒業。同大学院音楽研究科修了。渡仏し、現代音楽の研鑽。2005～2008年兵庫県立芸術文化センター管弦楽団(HPAC)の第一期コアメンバー。2009年、2013年、パリ、フガートアソシエーション主催の弦楽マスタークラス教授。2014年ニューヨーク、ヴァイオリンサミット教授として招かれる。現在、長岡京室内アンサンブル、いずみシンフォニエッタ大阪、各コアメンバー。Zaza Quartet、Ensemble ZAZAを結成、積極的な活動を展開している。2015年より相愛大学音楽学部非常勤講師。



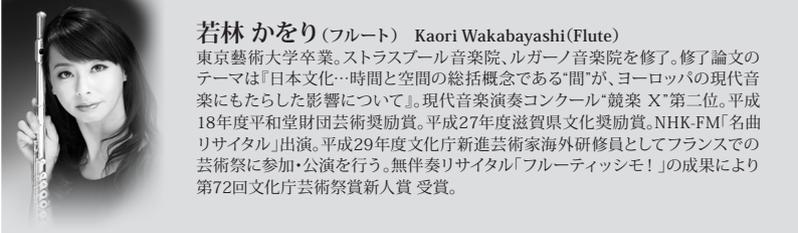
五十嵐 美果(ヴィオラ) Mika Igarashi (Viola)

京都生まれ。大阪芸術大学卒業の後、渡独。ドイツ国立トロンボーン音楽大学大学院を最優秀で卒業。1998年よりドイツ アウグスブルク市立劇場オーケストラ、スイス ザンクトガレン・シンフォニーオーケストラに正団員として在籍の後、2004年までドイツ パードライヒュンハーラー・フィルハーモニーオーケストラにて首席ヴィオラ奏者をつとめた。在独中、ベルナデル弦楽四重奏団、ライヒュンハーラー弦楽四重奏団のヴィオラ奏者として各地で演奏。2004年帰国。2004年4月より京都市交響楽団ヴィオラ奏者。



福富 祥子(チェロ) Shoko Fukutomi (Cello)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、および同大学を経て同大学院後期博士課程修了。ベルリン芸術大学演奏コースを修了し、ドイツ国家演奏家資格を取得。2009年、演奏家の身身の調和についての研究で博士号(音楽)を取得。第2回ローマ国際室内楽コンクール第1位、第2回ヨーロッパ国際音楽コンクールデュオ部門最高位。また演奏活動と並行して2005～2008年にかけてドイツで行われた「アリスボキネシス(理学療法に基づく演奏家のための身体法)」教師養成コースを受講し教師資格を取得。東京藝術大学非常勤講師。



若林 かをり(フルート) Kaori Wakabayashi (Flute)

東京藝術大学卒業。ストラスブル音楽院、ルガーノ音楽院を修了。修了論文のテーマは『日本文化…時間と空間の総括概念である「間」が、ヨーロッパの現代音楽にもたらした影響について』。現代音楽演奏コンクール「競奏 X」第二位。平成18年度平和堂財団芸術奨励賞。平成27年度滋賀県文化奨励賞。NHK-FM「名曲リサイタル」出演。平成29年度文化庁新進芸術家海外研修員としてフランスでの芸術祭に参加・公演を行う。無伴奏リサイタル「フルーティッシモ!」の成果により第72回文化庁芸術祭賞新人賞 受賞。